



平成20年6月

## けいはんな新産業創出ニュースレター第4号

(会員さま配布資料)

<目次>

本号におけるけいはんなのトピック・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

本号の注目企業(関西・東大阪)・・・・・・・・・・・・・・・・P 2～4

北陸地域の注目企業・・・・・・・・・・・・・・・・P 5～7

中部地域の注目企業・・・・・・・・・・・・・・・・P 8～10

センター情報・・・・・・・・・・・・・・・・P 11～15

事業化情報・・・・・・・・・・・・・・・・P 16

会員の皆さまへ・・・・・・・・・・・・・・・・P 17

発行：けいはんな新産業創出・交流センター 大阪オフィス

〒 530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24F

電話 06-6441-9213 FAX 06-6441-9347 発行人 佐藤有彦 担当 天野了一



<本号の注目企業・関西> (東大阪の(財)大阪産業振興機構からご紹介いただきました。)

## 株式会社 秀英

- ・創業：1972年
- ・資本金：1800万円
- ・代表：代表取締役 上田 秀行
- ・特筆事項：[平成15年度大阪府環境農林水産総合研究所「環境技術評価・普及事業」対象製品](#)
- ・事業内容：分離リサイクル可能なペーパートレーの製造販売

### <注目点>

・[リサイクル紙容器「ホッかる」](#)を開発。この器は、積み重ね保管、運搬が容易な一枚の紙から、簡単に組み立てられる。2層構造で、[使用後、汚れた内面フィルムと外側紙を手で簡単に分離・分別](#)できる。

・器は段ボール構造。温かい手ざわりとともに、空気層による高い保温性を持つ。[原料紙は100%バージンパルプ](#)を採用。[有害金属、蛍光材などを含まない](#)。自由な印刷や大きさ、デザインが可能で2万個単位から、オリジナルな容器を作成することができる。



・[フィルム、接着剤も食品衛生法・食品、添加物の規格基準、容器包装の規格基準に適合](#)。フィルムは、抗菌性で、揚げたてのフライへの耐熱性があり、フタを開けた時の匂いもなく、そのまま電子レンジもOK。使用後、フィルムは破棄するが、[焼却してもダイオキシン等の有害物質は発生しない](#)。



・ゴミの減少、紙のリサイクル、ひいては、石油資源の

有効利用、森林資源・水資源の保全、二酸化炭素の吸収、温暖化防止に貢献できる。

・現在、東京、大阪はじめ、全国の多数の大学生協食堂での持ち帰り容器として採用されている。先般、大阪・中之島祭りにおいても採用された。

### <連絡先>

住所：〒578-0921 大阪府東大阪市水走1丁目16番37号

電話：072-966-1145 (代表) FAX：072-966-2655

E-mail：[info@hokkaru.co.jp](mailto:info@hokkaru.co.jp) URL：<http://www.hokkaru.co.jp/>

## ユーアイニクス 株式会社

- ・設立：1964年
- ・資本金：3000万円
- ・代表：代表取締役社長 上田 克信
- ・特筆事項：[1987年堺市合理化研究モデル工場指定 \(ISO9001, 14001を取得\)](#)

### [2008年堺商工会議所「堺技衆」\\*認証企業](#)

\*...「堺技衆」とは、堺の優れた企業が全世界に広く認知されることにより、地域全体のイメージアップと経済発展の促進を目的として、堺市内で高度な先端技術や伝統の技を有する企業を、競争力、経営、市場開拓、社会・環境等への配慮・貢献などの項目で評価し、有識者の審査会で認証する制度

- ・事業内容：デジタル指示計、加圧電源、地震感知器の開発・製造・販売、OEM製品の開発・製造

### <注目点>

- ・計測データの表示や稼働状態の監視・制御を行う工業用指示計(デジタルパネルメーター)を製造。同社の製品は、[既成品が持ち合わせていない仕様や機能を数多く有する。](#)

・[OEMや特殊仕様等、オーダーメイドの製造も一台から可能。](#)多品種少ロット化、小型化、開発期間の短縮化など、高度な要望に応えられる。多彩な製品アイテムをラインアップし、計測機器の周辺分野であるコンピュータ、ソフトウェア、制御、通信技術なども追求。高付加価値のオリジナル製品の開発を進める。現在、数十種類に及ぶデジタルパネルメーターや、顧客毎に仕様の違うカスタム電源「コンパス」、OEM製品等、数多くの製品を擁している。

・近年は、機械装置メーカー、制御機器メーカー等から依頼を受け、製品開発の企画段階からプロジェクトに参画し、ジョイントベンチャー的に展開するケースが主流になっている。

### <連絡先>

住所：〒593-8311 大阪府堺市西区上123-1 TEL：072-274-6001 Fax：072-274-6005

URL：<http://www.uinics.co.jp>

### <製品例>

[「4入力小型瞬時指示計 SP-494」](#) (新製品)

[「地震感知器：GURACUT GB-15VC/GB-25VC」](#)



- ・4パル信号を1台に入力、計測表示/監視ができる。
- ・入力に対しそれぞれ2段の出力出力ができる。



地震等で機器・装置がグラツときたら、直ちに接点出力を行い、機器や装置の稼働を停止し、安全を計ります。

## 有限会社 的場電器エムテック

- ・設立：1996年
- ・資本：300万円
- ・代表：代表取締役社長 的場 誠治
- ・特筆事項：熟練を要し、大変な串刺し作業を、誰でも簡単にできる機械の開発
- ・事業内容：産業用ロボット製造・販売

### <注目点>

- ・自動串刺し機「らくちん君」は、非常に手間のかかる食品の串刺し作業が、誰にも簡単に楽にできる機械。鶏肉、牛肉、豚肉、野菜、団子、おでん種など幅広くあらゆる具材に対応。抜群の生産性。1本差し機械は、アルバイト一人で1時間あたり240~360本（手ざしの2倍）できる。作業はトレーに具材料を入れて送るだけで初心者も簡単。1本差しと3本差し機の2機種があり、より高性能の3本差し機械は1時間に2700本の生産能力を有する。

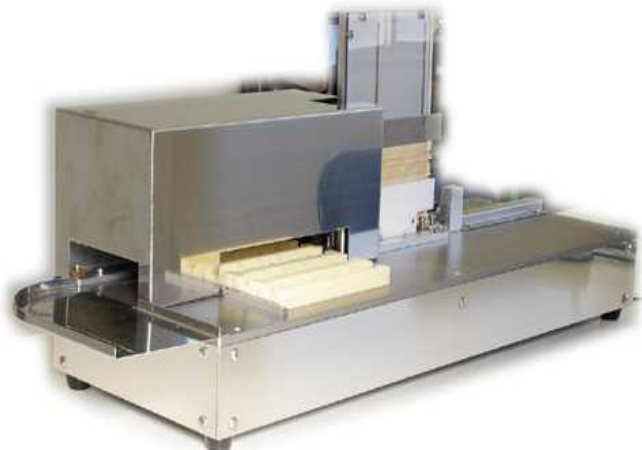
### <機械の特徴>

- ・トレーに材料を入れ機械に送り込むだけで誰にでも簡単に串刺しができる。
- ・トレー、串のサイズはオーダー。お客様の要望や、具材に合わせてトレーとワーク押さえを作成
- ・いろんな串の形、長さ、径や厚みに合わせて作成。
- ・材料を手で握らないので雑菌が付きにくいので衛生的。ワーク押さえは丸洗い可能。
- ・串の長さ：丸串：95mm~180mm 径：3mm~4mm 鉄砲串：150mm~180mm 径：3mm~4mm  
(いろんな串の形、長さ径や厚みに対応できるようオーダーできる。また刺しにくい生肉、モモ肉、モモ肉の皮、キモ、ズリ、皮など刺せる)

<製品例：らくちん君>

### <使用法>

- 1：トレーに具材挿入しトレーを送り位置まで入れる。
- 2：トレーを串刺し位置まで送る。
- 3：上型が降下し具材を押さえる。
- 4：串を送り串刺しをする。
- 5：完成品を送り出す。
- 6：完成品をトレーから取り出す。  
(1と2と6が手作業、3~5は機械作業)



### <連絡先>

住所：〒577-0736 東大阪市澁川町 1-3-9  
TEL：06-6730-2129 FAX：6730-2139  
URL：<http://www.matoba-elc.co.jp>

< 本号の注目企業・北陸地域 > (北陸経済連合会からのご紹介)

## 株式会社 山田技研

- ・設立：1987年
- ・資本金：1000万円
- ・代表：代表取締役 山田忠幸
- ・特筆事項：

・「2000年 福井県科学技術奨励賞(福井県)」

・2003年 第25回日本道路会議の優秀論文

(日本道路公団)」を受賞。

- ・国土交通省、福井県、福井市、北陸・近畿地域の市町

村。東日本高速道路株、中日本高速道路株、西日本高速道路株、JR西日本旅客鉄道株へ製品を納入するとともに、これら道路管理者等と国際・国内特許を共同出願。

- ・事業内容：「雪から幸(ゆき)を造る」ことを目標に、冬期の道路・鉄道の安全と快適性に貢献する雪氷計測センサ、路面センサ、車載式塩分濃度センサを開発。



< 注目点 >

- ・同社は、融雪装置等の自動運転を経済的なものとするため、路面状態をきめ細かに把握できるセンサを開発した。路面センサと冬季気象センサを組合せて自動運転した結果、従来の降雪センサ・路温センサ・着雪センサの自動運転に比べて、融雪電力の48%節約が可能に。

- ・路面の凍結・積雪状態は、地中熱や車両の通過によって常に変化する。同社製のセンサは、路面上空から直接、路面状態を計測、道路の横断方向(わだち部・非わだち部)を計測、50測点のきめ細かい計測情報は、運転者・雪氷管理者・ITS「高度道路交通システム」に、利用可能、融雪装置・凍結防止装置の経済的な自動運転制御が可能、従来センサ5台分の計測機能を、1台に集約した性能を有し、 気温計(気象庁認定)・降雪センサ・着雪センサ・凍結センサ・路温計・積雪深計(気象庁認定)・モニターカメラとしても利用可能。

- ・今後、車載用センサ等への展開を考えたい。ただ、顧客のほとんどが道路管理者であり、主力の道路設置のセンサ類から得られるデータ、情報を、カーナビを中心とした車載機器に活用展開する場合、データ、情報の所有権についてクリアすべきハードルがある。

< 連絡先 >

住所：〒918-8015 福井市花堂南2-5-12

TEL：0776-36-0460 FAX：0776-36-0623

URL：<http://www.yamada-giken.co.jp/>

## 小松電子株式会社

- ・設立：1969年5月
- ・資本金：9900万円
- ・代表者：代表取締役社長 田中義也
- ・特筆事項：

04年、医療分野での展開装置として、超純水製造装置を開発。07年から中部経済産業局「新連携」事業に、08年から、中小機構の「販路開拓コーディネート事業」に採択。

- ・事業内容：EMS（受注品の試作、開発、製造）各種FA機器製造販売、医療（分析機器、純水装置）環境（循環型ゴミ処理装置）の4領域を事業分野とするハイテク企業

### <注目点>

- ・超純水製造装置「うるぴゅあ」の製造・販売に注力。
- ・超純水とは、有機物や微粒子、気体などを除いた、極めて純度の高い水で、半導体や医療関連の製品の製造工程での洗浄等、用途は幅広い。瓶に入れて保存したり運んだりができず、使用現場での製造が前提になるが、「うるぴゅあ」は、「超純水」を、水道に直結するだけで、3リットル/分(瞬間最大値)、1時間最大12リットル作ることができる。大きさは幅35センチ、奥行き55センチ、高さ1.2メートルの箱形で、省スペースを実現。ライバル製品に比べコストパフォーマンスが高い。特に、メンテナンス費の半減を実現。



### <製品の特徴>

- ・一般的に純水は、水をフィルター等を透過させてつくるが、細胞片のようにフィルターを通過する有機物は、取り除くことが困難だった。本製品は、フィルターだけでは除けない有機物について、フィルター透過後、光触媒に紫外線を照射して純水から有機物を取り除き「超純水」にする独自の方法を開発（米国特許取得 No11/181,896、国内特許審査請求中）。
- ・また、採水口を動かせるようにし、使い勝手の向上を図るとともに、装置が使われている状態を、リモート監視し、部品交換の必要などを的確に把握できるため、メンテナンス性にもすぐれている。
- ・医療分野への展開を目指し、05年から装置を金沢大学医学部に設置。動物や遺伝子、分析などの分野で性能を検証している。

### <連絡先>

住所：〒923-8642 石川県小松市安宅町甲135

TEL：0761-21-2000（代） FAX：0761-21-9689

URL：<http://www.komatsu-ec.co.jp/> E-mail：[ul-pure@komatsu-ec.co.jp](mailto:ul-pure@komatsu-ec.co.jp)

## エコサイクル株式会社

- ・設立：1999年5月
- ・資本金：7,435万円
- ・代表者：シュリハリ・チャンドラガトギ社長
- ・特筆事項：
  - ・02.7 富山県新世紀産業機構「平成14年度新産業創出公募事業研究委託」決定
  - ・[05.6 環境省「平成16年度低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討調査」にて技術評価](#)

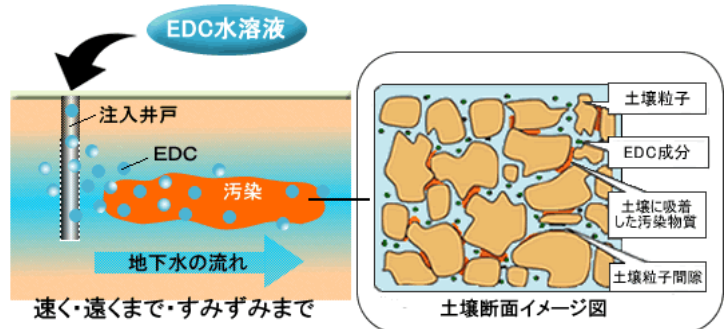


- ・事業内容：バイオテクノロジーと化学エンジニアリングを統合し、安全確実に、低コストで環境負荷低減を可能にする高品質の新商品・サービスを提供することにより、お客様のCSRや環境適合をお手伝いする環境ベンチャー企業。バイオ浄化剤 製造・販売、パイロット試験（小規模浄化テスト）、ラボ試験（トリータビリティ試験）、等を実施。

### <注目点>

- ・[EDC（電子供与体混合物](#) : Electron Donor Compound) は、[VOC（有機塩素化合物）による汚染土壌・汚染地下水をバイオ浄化するための製品](#)。

- ・EDCは、炭水化物、アミノ酸などを含み、微生物にとってバランスの良い食品材料で構成された粉体（右上写真）。水に溶かして土壌に添加することで、天然の微生物が増殖・活性化し、VOC分解能力を発揮。



- ・微生物の力により最終的に生成されるのはエタン、水、無機塩など全て無害なもの。EDC自身も土中で自然分解するので安全。また、[従来のバイオ浄化では困難だった100mg/Lを超える高濃度汚染に対しても効果](#)があり、[実績も多い](#)。水に溶けやすいため簡単に使え、大規模な設備が不要。また、土壌掘削などの方法では、工場の操業を停止しなければ浄化工事は困難であったが、これを使えば[工場や店舗が操業中の状態でも、浄化作業が可能](#)。

### <連絡先>

住所：〒939-8064 富山県富山市赤田 694-2

TEL:076-420-3122 FAX:076-420-3161

E-mail : [information@ecocycle.co.jp](mailto:information@ecocycle.co.jp) URL : <http://www.ecocycle.co.jp/>



<本号の注目企業・中部地域> (中部経済連合会からのご紹介)

## 株式会社 ティーアンドケー

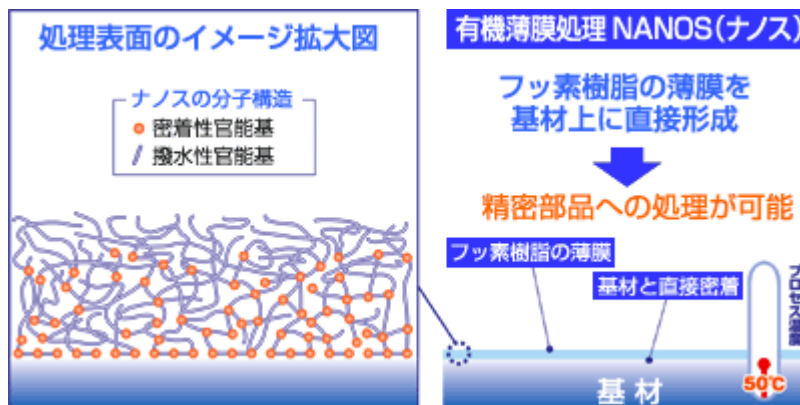
- ・設立：2002年1月
- ・資本金：3000万円
- ・代表者：代表取締役社長 葛山 徹
- ・事業内容：素材表面の薄膜処理、エキシマレーザーによる微細加工

<注目点>

### ・独自の有機ナノ薄膜処理技術

「NANOS (ナノス)」:

- ・薄膜原料を真空中で加熱・蒸発させ、基材表面に凝固・固化させることにより、金属・ガラス・樹脂等あらゆる素材の表面にナノスケールのごく薄い機能膜を形成。



- ・表面の形質を変え、撥水、撥油、離型、防汚等の機能を付与、金属・ガラス・樹脂など、あらゆる素材への成膜が可能（樹脂の場合は、必要に応じ密着層を挿入）膜厚が数ナノ～数百ナノメートルと極薄で、処理温度も 50 と低いため、基材に寸法変化やダメージなどの影響は、ほとんどない。段差被覆性、密着性も良好。化学結合基材の自由度も大きい。

<製品例> :

- ・「卓上型 NANOSCEPTER (ナノセプター)」は、「NANOS (ナノス)」プロセス専用処理装置。このプロセスを卓上サイズで装置化したもの。省スペースと低価格を実現。装置を導入いただくことで、ワークを外部に出す必要がなくなり、機密保持の観点からも有効。応用分野として、ナノインプリントなど精密金型の離型処理、MEMS、バイオチップなどの撥水処、インクジェットヘッドの撥水処理などに幅広く利用可能。



<連絡先>

住所：〒510-8125 三重県三重郡川越町北福崎4 1 0 - 1

TEL：059-361-7886 FAX：059-361-7889

E-mail：[t\\_katsurayama@katsurayama-tech.com](mailto:t_katsurayama@katsurayama-tech.com) URL：<http://www.tandk-inc.com/>

## アルファ株式会社

- ・設立：2001年4月
- ・資本金：2万円
- ・代表：代表取締役 堀 富士夫
- ・特筆事項：中部経済産業局・企業育成総合支援室が担当する東海ものづくり創生プロジェクトの一つ「ロボット技術（IRT）クラスター事業」に参画
- ・事業内容：粉体機器製造からプラントエンジニアリング設計・製作・施工、省力化設備設計、混合機、供給機、計量機、集塵システムなど 各種粉体機器を製造

### <注目点>

- ・昨年の11月に販売開始した超微量粉末自動計量機『ゼロバランサー』。粉末の供給量を微量調節でき、±0.2mgの精度で自動計量が可能。
- ・微量粉末の計量は、医薬品、試薬品、化粧品、化学品、電子部品、自動車関連産業などの幅広い分野で重要であるが、従来、この作業はパートや派遣職員の手作業で行われ、医薬品業界や研究機関では、研究者が手作業で行っているなど、多くの企業や研究機関で、この作業に大量のマンパワーを投入している。また、触りたくない劇物、吸い込みたくない毒物、爆発性のある粉末など危険を伴う場合も。
- ・本製品の自動化システムには、安全性と業務効率化のメリットがある。さらに、この『ゼロバランサー』を応用、開発した粉塵供給機『ダストディパーチャー』は、JIS粉体を用いた粉塵量実計量方式では、業界初の粉塵環境試験装置。
- ・粉体を1粒子ずつ精密に供給できる技術を用いると、取り扱う粉の違いにあわせて、ゼロバランサーをカスタマイズすることも可能。数百種以上の異なる特性を持つ粉について、その特性に合わせたカスタマイズが可能であるため、従来は想定されていない分野で、お役に立てる可能性がある。



### <連絡先>

住所：〒487-0034 愛知県春日井市白山町6丁目6-8

TEL：0568-53-5611 FAX：0568-53-5612

E-mail：[zero@zerobalancer.jp](mailto:zero@zerobalancer.jp) URL：<http://www.zerobalancer.jp/>

## ダイヤモンドエアサービス株式会社

- ・設立：1989年10月2日
- ・資本金：2,000万円
- ・代表者：川崎 治憲
- ・特筆事項：三菱重工の関連会社として工場内に存在。宇宙開発という最先端科学の領域から生まれる成果は、夢を現実のものにし、人類の発展に大きく貢献する。宇宙空間が生み出す新しい科学の期待に挑戦する研究者に、小さな宇宙を提供する。
- ・事業内容：航空機による  $\mu$ G 実験の提供

### <注目点>

- ・航空機のパラボリックフライト(放物線飛行)により機内に生じる20秒間の微小重力環境(3 x 10<sup>-2</sup>G以下)。その環境下においてできる各種宇宙実験等の機会を提供するサービス。
  - ・航空機は三菱式MU - 300およびガルフストリーム II (G - II) を使用。
  - ・実験を行う際はJAXA (宇宙航空研究開発機構) が開発した実験支援システムを搭載。
- ・航空機による  $\mu$ G 実験では以下のような特徴がある。
  - ・1飛行で多くの実験機会がある。(通常、1飛行6~10回のパラボリックフライトを実施)
  - ・実験者が搭乗し、その場で実験の観察、操作、条件設定が可能。
  - ・任意のGレベル(+0.03G~2.5G)での実験が可能。
  - ・実験者自身が微小重力環境を体験できる。
  - ・実験者とパイロット間のコミュニケーションが容易にできる。
  - ・宇宙実験に比べ安価に実験可能。 【微小重力空間：20秒×5回】307千円/人~  
【微小重力実験環境】：1,500千円/人~ (貸切飛行)

## $\mu$ G 微小重力 実験

大空の無限の可能性  
を目指して



### <連絡先>

住所：〒480-0293 愛知県西春日井郡豊山町大字豊場1 (三菱重工業株名航小牧南工場内)  
TEL：0568-29-0020 FAX：0568-29-0021  
E-mail：[m-ito@das.co.jp](mailto:m-ito@das.co.jp)、URL：[http://www.das.co.jp/new\\_html/company/01.html](http://www.das.co.jp/new_html/company/01.html)

## <センター情報>

### 【各種フォーラム等】

#### <実施済分>

4月24日、第7回シーズフォーラムを開催。

- ・福井大学と大阪市立大学のコラボレーションにより、「地域と共生した空間を創造する」と題し、耐震・環境保全に資する建築技術をテーマに、フォーラムを開催しました。



#### <講演概要>

大阪市大・角野新産業創生センター所長「大阪市立大学における産学官連携の取組状況」:

- ・大阪市立大学は、市民のニーズに応え、成果の還元を旨とする都市型総合大学。産学連携の取組として、i)H15から32回のオープンラボを開催。テーマに合う業種の方々が参加された。ii)H17 医薬品食品効能評価センターを開設。食品の効能を評価する機関としては日本初だ。

大阪市大・大内教授「木造軸組みへの耐震補強-湾曲状仕口(柱と梁の接合部)ダンパー-」:

- ・震災の際の木造家屋の仕口の変形を防止するため、伸び能力の高いアルミを使った湾曲状のダンパーを作成した。安価で、湾曲性により応力の減衰が可能のため折れにくい。無補強の場合より最大応答部材角を50%低減できる。個人でも取付可能だ。

大阪市大・谷口教授「『ECO&耐震』住宅・建築関連技術シーズ開発のヒント」:

- ・i)竹を使った建築構造用部材と、ii)竹繊維による建築構造材料を開発中。i)は、細く切った竹を籠目状に組合せたもの。ii)は内装材として製品化を検討。日本の産廃の2割が建設廃棄物であるから、再利用可能性が高く成長も速い竹を活用できれば有益だと思う。

大阪市大・北田教授「構造物の機能評価システムと機能向上デバイス」:

- ・橋梁に関して開発した各種の技術 耐震性、安全性等の機能評価の解析システム、緊急補強用の万力、高変形能高力ボルト、免震支承用のサイドブロック、地震用緩衝材等は、一般構造物にも応用可能と考えているので、是非活用を検討願いたい。

福井大・山本産学官連携本部副本部長「福井大学産学官連携本部の活動」:

- ・福井大は、産業界との技術交流のため、イキュベーションポッドファクトリーを設置し、学生のビジネス意識を高めるとともに、単位も与えてきた。また、眼鏡の製造技術を活かし、発展型の都市IIP産学連携促進事業「ナノめっき技術が創出する安全・安心IIPデバイス」を推進してきた。

福井大・磯講師「鉄筋コンクリート構造物の環境負荷低減技術と高性能化に向けて」:

- ・コンクリート材外及びコンクリート部材に合成繊維を入れると、震災IIPを吸収でき、構造部材の損傷制御、長寿命化が可能で、構造物の部材にも活用できる。また、原発等の解体時大量発生するコンクリートガラは、なかの碎石の取り出しが難しく再利用は困難だったが、この取り出し技術を開発し、再利用を可能にした。

(次頁に続く)

福井大・[小嶋准教授](#)「常時微動観測の地盤調査への応用法について」:

- ・耐震性を測るには、低強度軟弱地盤である沖積層の厚さ・広さが問題である。従来の調査は掘削費や信頼性に問題があったが、[常時微動観測（地表面数点での観測）](#)は、掘削不要で簡便、かつ上下・水平の波を測定できるため、観測点を増すことにより、地盤構造をほぼ正確に掴むことができる。

福井大・[福原教授](#)「地中熱による路面温度制御」:

- ・[地熱を使うロードヒーティング・クーリング](#)を実施中。路面が一定温を過ぎると貯蔵地下水を汲み上げ、路面下5~8cmの配管に通し、熱交換機を放出・吸収、また地下へ戻す（冬：路面温5度以下で、夏：25度以上で作動）ことにより、冬季には融雪、夏季には路面の冷却が可能に。これには下水や湖水の熱も活用可能である。

## 6月5日(木) 第5回ベンチャーフォーラムを開催。

- ・ユビキタス社会の嚆矢とも言うべきウェアラブルコンピューター研究の俊英として、活躍中の神戸大学・寺田努准教授をお迎えし、基調講演を賜った後、ICTを駆使してユニークな活動を展開されている4つのベンチャー企業から発表いただきました。

< 講演の概要 >

[寺田・神戸大准教授](#)「ウェアブルでいこう！ウェアブル・デバイスが生み出す新たなパラダイム」:

- ・今の携帯は、TVの長時間視聴やチェック情報量の急増には対応しきれない。[今後はPCを身に付ける\(ウェアブル\)か、周りにPCを配置するか\(デバイス\)が必要](#)と思う。
- ・このPCで把握した事態への対処を具体化する際のキーワードは「[状況認識](#)」(特定の状況をどう判断するか)と、[PCの「状況認識」如何で、格段にサービス品質は向上する](#)。
- ・例えば、ある料理を学ぶのに、多数の調理師の様々な動きをPCで集め調べると、必須の共通動作を発見でき、「コツ」が判る。また、鈴鹿8耐の際、ウェアブルPCを活用して、チームの監督に、周辺状況が確認できるシステムを提供すると、未曾有の好成績を獲得した\*。

\*...但し、レサチームには特有の職人気質があり、機械化で勝利しても達成感は乏しい模様。

水原・[株クリアリンクテクノロジー](#)社長「通信高速化とセキュリティによる効率的なグローバル情報交換ソフトウェア技術への挑戦」:

- ・通信とセキュリティに関する研究開発を行う企業。
- ・「[デジ急便](#)」は、[高速かつ安全に大容量のデータが送達可能なツール](#)。特別な中継サーバの設置により、暗号のまま相手の手元に届く。また、多数の論理通信網の多重化制御により高速化が実現。[今年から海外展開も可能に](#)。電子証明は自動処理。安全性と利便性の両立のため、分散鍵にしつつ、鍵保有の3名中2名で、解錠可能とした。(次頁に続く)

More Secure, Make Sure! CLEALINK

大企業・中小企業対応 デジ急便 Digital Delivery Service

グローバルデータ通信時代 重要なデータも安全・高速転送!

HIGH-SPEED 高速  
LARGE CAPACITY 大容量

SECURE COMMUNICATION 安全

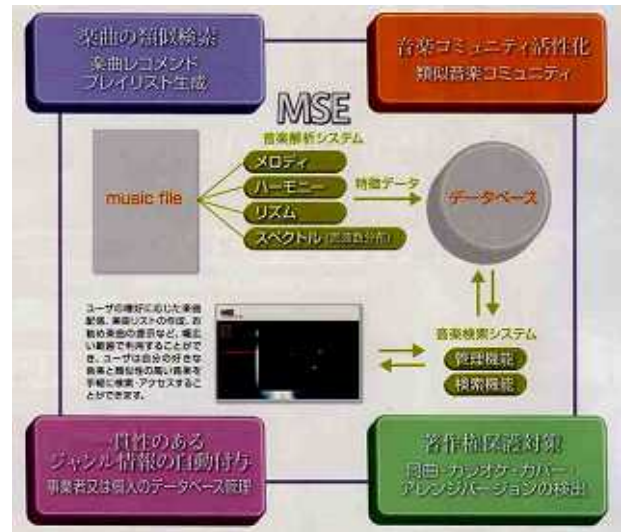
CAPACITY FREE

データのセキュリティを確保  
暗号化されたデータを送信  
暗号を解除してデータを受信

分散鍵のセキュリティ  
鍵保有者の2名以上で解錠  
鍵共有のセキュリティ  
鍵共有者の2名以上で解錠

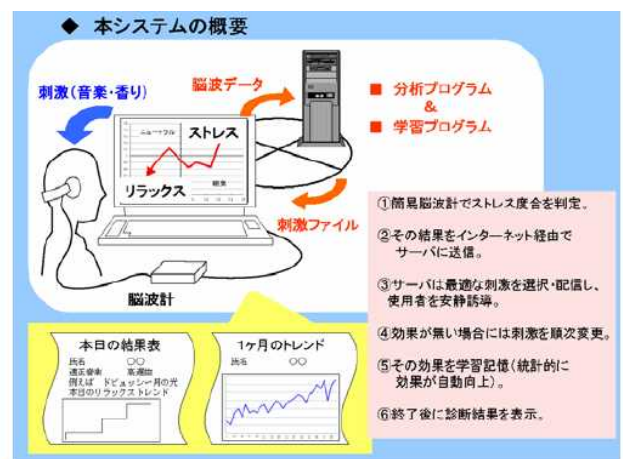
黒川・(有)イクシコム社長「次世代音楽類似検索エンジンMSE」:

- ・「MSE」は、音楽信号そのものを解析、リズム・メロディ・ハーモニー・スペクトルの特徴を抽出して、類似の楽曲を検索するソフト。好きな曲を探すべく検索する、カラオケ等で類似の音楽を選ぶなどの際、利便性を高める手段として、活用できないかと考えている。



木村・(株)デジタルメディック社長「リラックス力(りょく)を測る技術・楽しむ工夫～脳波フィードバックシステムの事業化」

- ・被験者の脳波を調べ、リラックス時に脳が出す脳波を高めさせるツール「脳波フィードバックシステム」を開発した。これは、被験者に様々な音階・速度で特定の音楽を3分間聞かせ、その際の脳波の変化を計測、PCに表示し、脳波が最も良くなるパターンを選び再配信するシステム。現在、テスト的に若干の店舗等に置き、改善意見を求めている。今後、事業化に結び付けたい。



古芝・枚岡合金工具(株)社長「叫を呼ぶ『経営革新』のポイント～力の結集で躍進3Sから企業間新連携まで～」

- ・低迷期に、他企業と「大阪エンジニアリング研究会」を結成、切磋琢磨。3S活動から改革を始めた。そうしたなか、「デジタルドルフィンズ」という、究極の資料整理が可能なICTシステムを開発。



- ・書類の取出し時間は、秒単位にまで短縮。圧倒的な業務効率化を実現する。どんな企業も基本は3S。これを「決めて守る、習慣、文化、風土にする」必要がある。

## 6月4日 第1回全国経済連合会新規事業支援連絡会を開催

- ・北陸経済連合会(金沢市)にて、全国の8経済連合会(北海道、東北、中部、北陸、関西、中国、四国、九州経済連合会)により構成され、弊センターを含めた各経済連合会の関係支援機関も参加する「第1回全国経済連合会新規事業支援連絡会」が開催されました。
- ・会議では、各団体が実施した新規事業創出や、シーズのマッチング、ベンチャー支援に係る様々な活動の報告と情報交換を行うとともに、マッチング成果拡大に向けた広域連携の推進について、活発な意見交換を行いました。今後、年1回開催予定。

## 6月25日 けいはんな国際環境エネジ初フォーラム(環境エネジ-研究会キックオフミーティング)を開催。

- ・平成20年度新たに発足した「環境エネルギー研究会」の研究テーマについて探求し、プロジェクトの創出を目指すキックオフとするため、標記のフォーラムを開催。多数の参加で大いに賑わいました。
- ・**午前：公開ワークショップ**：(研究会を公開で実施)  
「情報ネットワーク技術を活用したエネジ-自立(自律)の地域と住宅と車のハイブリッド空間の形成に向けて」

### ・午後：シンポジウム：

#### (1) 特別講演：

**矢嶋・株島津製作所会長**：「関西の強みを活かした次世代『環境貢献型産業』創出を目指して」

#### (2) テーマ講演：

**松山・京都大学情報学研究所教授**：「ICTによるエコエネジ-マネジメント」

**千田・同志社大学理工学部教授**：「エコシティサステイナブルアーバンシティの実現に向けて」

#### (3) 事例報告：

**有本・株スリーエス環境技術研究所所長**：「精華町エコタウン構想の取組について」

**西村・関西大学商学部準教授**：「日中産学公連携プロジェクト 太陽エネジ-の高度利用技術の開発について」

フォーラム総括：**池田・大阪大学先端イノベーションセンター特任教授**

## <今後の予定>

### 7月17日、第3回 けいはんなビジネスメッセのご案内

- ・弊センターでは、けいはんな学研都市を中心に、研究機関・大学等が保有する知財の紹介、及び、中小・ベンチャー企業の技術シーズとニーズのマッチング促進を目的として、**ビジネスメッセを開催**いたします。今年度は、対象分野を「ICT・ものづくり、光、医療、健康・福祉、環境」に広げ、出展機関数も昨年の58機関から81機関に増加します。本メッセへ多くの皆様のご参加を、お待ちしております。ぜひ、**下記URLから、お申込下さい。**

<http://keihanna.biz/messe2008/index.html>

- ・日時：平成20年7月17日(木) 10:00~17:00
- ・場所：けいはんなプラザ(京都府相楽郡精華町光台1-7) 参加無料
- ・お問い合わせ先：けいはんな新産業創出・交流センター0774-98-2230



## 7月29日、第8回シーズフォーラムのご案内

・弊センターは7月29日、名古屋の(財)ファインセラミックスセンターと神戸大学のコラボで下記のとおり、シーズフォーラムを開催します。多くの皆様のご参加を、お待ちしております。ぜひ、[下記 URL から、お申込下さい。](#)

・日時：平成20年7月29日(火) 13:30~17:30

・場所：関西経済連合会・大会議室(中之島センタービル29階)参加無料

・テーマ：「[ナノテクノロジーが拓く有機系・無機系素材](#)」

URL:[http://keihanna.biz/activities/seeds\\_forum/index.php](http://keihanna.biz/activities/seeds_forum/index.php)

(けいはんな新産業創出・交流センターのHPからもお申込いただけます。)

・お問合せ先：けいはんな新産業創出・交流センター・大阪オフィス(担当：川村)

TEL:06-6441-9213 FAX:06-6441-9347

E-mail:s-forum08@keihanna.biz

## 【若手研究者交流会】

・学研都市に立地する企業・研究機関・大学院などの若手研究者が、フェイス・トゥ・フェイスで自由に意見交換し、異なった分野の方々と交流を深め、新しいビジネスや共同研究が生まれるきっかけにしてもらうことが目的。

・6月18日は、「国立国会図書館関西館の見学&交流会」を実施。次回は秋口に実施予定です。詳細が決まりましたら弊センターwebサイトでご案内いたします。

## 【サイエンスカフェ】

・最先端の科学技術に触れつつ、和やかに参加者同士の会話が弾む異業種交流会。ゲストスピーカーに、毎回、科学技術を中心に各界で活躍されている識者を迎え、最先端の技術内容、動向等をお話しいただくもの。

・4月2日(水)第24回サイエンスカフェを開催。[\(株\)タイムドメイン 由井啓之社長](#)に、リアルな音質が再現できる「タイムドメイン理論」を活用したスピーカーの製品化についてお話を伺い、36名が参加しました。

・6月4日(水)第25回は、[京都大学大学院工学研究科・建築学研究室 銚井修一教授](#)から、「健康で快適な室内環境を実現するための人間の温熱生理モデル」についてのお話を伺い、31名が出席しました。

## <次回の予定>

・次回第26回は、[8月6日\(水\) 京都大学 物質-細胞システム拠点 上杉志成教授](#)から、「化学を出発点として生物学の研究に帰着する、ケミカルバイオジェネティクスの新潮流」について、お話を伺う予定です。有機化合物を起爆剤として使うことで、新たな切り口で生物や細胞の研究につなげていく考え方です。

・お申込みは、<http://www.keihanna.biz/>から。



## <事業化情報>

### ダチョウの免疫抗体による鳥インフルエンザ対策の事業化

・京都府立大学・塚本康浩教授の研究により、ダチョウの卵から、高病原性鳥インフルエンザウイルスを不活化する抗体を大量に生産する方法が開発されました。



・ダチョウ卵黄による精製法を使うと、卵1個から2~4gの抗体が採取可能となり、1羽のダチョウから年間400g精製できます。

生産コストは、鶏卵からの精製に比べ30分の1。さらに、1羽から大量の採取ができるため、ロット間の差が少ない利点もあり、従来高価だった抗体の工業的使用に道を開くことも、期待されています。また、この抗体を不織布に織り込めば、マスクやフィルター等、様々なインフルエンザウイルス拡散防止素材が製造でき、かつて不可能とされていた鳥インフルエンザに対応する抗体マスクも、製造が可能になります。

・この事業化のため、弊センターのエキスパート・ボランティア片江宏巳獣医師のコーディネートにより、けいはんなプラザ・ベンチャーラボ棟に事務所が設置され、現在、文部科学省科学技術新興機構（JST）の独創的シーズ展開事業・大学発ベンチャー創出推進プロジェクトとして、補助金を獲得し取り組んでいます。

・なお、この抗体マスクは、福岡のベンチャー企業CROSSEED（クロシード）社が、パイロット販売を開始。「日経ビジネス」2008年2月11日号にも紹介される等、注目を集めています。

#### <問合せ先>

けいはんな新産業創出・  
交流センター大阪オフィス  
TEL:06 - 6441 - 9213



<会員の皆さまへ>

弊センターの活動・会員サービスなどへのご意見・ご要望がございましたら、下欄にご記入の上、FAXまたはE-mailにて返信下さいますよう、心からお願い申し上げます。

《 FAX：06 - 6441 - 9347 E-mail：[amano@keihanna.biz](mailto:amano@keihanna.biz) 》

御社名

部署・役職

お名前

ご連絡先

(ご意見・ご要望)

- 本ニュースレターの必要部数をお知らせいただきますれば送付させていただきます。
- 本ニュースレターで紹介されたベンチャー、シーズにつきまして、ご関心をもたれた場合は、資料取り寄せ、紹介などさせていただきますので、お申し付けください。

(以上)